

100万円を超える高級コンポの音質をこの価格で実現する “Master Player”



販売価格 ￥350,000(税込)

ノーマルからのバージョンアップ
￥200,000(税込)



最新の AIRBOW は、最良の AIRBOW

2013年から生産するAIRBOWカスタムモデルは、従来モデルと比べてさらに音が良くなっています。私は音作りを料理に例えることが良くありますが、料理人が腕を上げる秘訣は「食べてみること」です。それまで知らなかった食材、それまで味わったことのない料理を食べることが糧となり作り手は無限に成長を続けます。オーディオの音を決める「テスター」にもまったく同じことがあてはまります。接続ケーブルなどを含めると総額2000万円を超えるTAD Reference Systemを2013年逸品館・3号館に導入しました。価格はともかくPMC BB5をフラッグシップとして導入して約10年、初めて出会えたそれを超えるシステムです。より良い音を知ると、それまで聞いていた音が物足りなくなります。“Master”の開発に主に使ったスピーカーは、TAD R1 Mark2ではなくVienna Acoustics Beethoven Concert Grand(T3G)やFocal 1028BEですが、それでも出てくる音をよりR1 Mark2に近づけようとするのが技術者のこだわりです。より良い最高の音を知ったことで、2013年から発売するAIRBOWコンポーネントの音質は世界最高水準に高まっています。新しいMaster Seriesをお聞きいただければ、それを即座に実感していただけるとと思います。留まることなく進化を続けるAIRBOWは、最新モデルが常に最良です。

各社フラッグシップ・デジタルプレーヤーを超える「高音質」が実現しました

SA14S1 Masterの発売に先駆けて、SA11S3 Ultimateを完成させましたが、実はこの二つのプレーヤーの基本回路はほぼ同じなのです。そのためSA14S1 Masterの製作には、SA11S3 Ultimateで得られたノウハウの多くが共有できます。しかし、PM14S1とSA11S3では、電源トランスの容量とアナログ出力回路の段数が異なり、SA11S1はより大きい電源トランスと高級なHDAM回路が使われています。そのためSA14S1 MasterをSA11S3 Ultimateと同じ手法で仕上げれば、SA11S3 Ultimateに敵わない低価格品にしかありません。そこでSA14S1 Masterでは、SA11S3 Ultimateで使わなかった「裏技」を駆使することにした。

SACD/CDプレーヤーのアナログ出力回路には、DACから出力される階段状の波形の角を丸めて滑らかな波形に変換するための「ローパスフィルター（ハイカットフィルター）」が使われます。このフィルター回路の「次定数」を変えることでPM14S1 MasterはSA11S3 Ultimateよりも低価格ながら、それに匹敵するほどの音質を与えることに成功しました。また、音質だけではなく音の滑らかさや艶やかさも飛躍的に向上しています。電源トランスの小型化には、アナログ回路に搭載される補助コンデンサー容量の大幅な増大で対応しました。

デジタルから出力されるデータは、どれだけ細かくても「点」でしかありません。それを線で繋ぎ、楽器から出るのと同じような滑らかな波形に変換するのは、すべて「アナログ回路」の働きです。オーディオ機器の本質は「アナログ回路」に極まります。AIRBOWが自信を持って作り上げた「アナログ回路」を搭載するSA14S1 Masterの音を一度でもお聞きいただければ、その良さがわかりいただけたと思います。ご家庭で音楽を楽しまれるならば、これ以上のデジタルプレーヤーは不要です。

SA14S1 Masterは35万円という価格ですが、各社から発売される100万円クラスのSACD/CDプレーヤーに匹敵、あるいはそれらを凌駕するほどの高音質を実現しています。その高音質はCD再生のみではなく、USB入力でも発揮されます。SA14S1 Masterは数十万円を下らないPC/ネットワークオーディオ向けUSB DACやネットワークセンターを確実に越えられる音質をUSB接続で発揮します。またフィルター回路の調整で得られた圧倒的に滑らかで繊細な音質は、CDから取り込んだ44.1kHz/16bitのファイルですら各社ネットワーク製品のハイレゾやDSDファイル再生を大きく超えるのです。iPod/iPhoneをお繋ぎ頂ければ、圧縮音源がCD並みの音質でお楽しみいただけます。

主な仕様

- オーディオ出力: RCA(アンバランス)2.0Vrms(ステレオ)
- デジタル出力: RCA 同軸出力/TOS リンク光出力 各 1 系統
- デジタル入力: RCA 同軸入力/TOS リンク光入力 各 1 系統
- USB 入力: TYPE-A(フロント)/USB メモリー、iPhone 接続可
TYPE-B(リア)/PC 接続可能 192kHz/24bit、DSD 対応
※専用ドライバーのダウンロードが必要です
- D/A コンバージョン: 1Bit DSD / 24bit リニア PCM
- 消費電力: 37W
- 寸法/重量: 440(W)×123(H)×419(D)mm / 14.5 kg

別売りアクセサリのご紹介



Beat Stone “Soul”

CD プレーヤーの上に置いて使います ￥8,800(税込)

100万円を超える高級コンポの味わいをこの価格で実現する “Master AMP”



販売価格 ￥350,000(税込)

ノーマルからのバージョンアップ

￥200,000(税込)



AIRBOW ブランドに恥じない「味わいの深さ」を実現しました

PM14S1 Masterは、上級モデルPM11S3 Ultimateの回路をほぼ踏襲しています。大きな違いは電源トランスとメイン電解平滑コンデンサの容量、フィルムコンデンサの品質です。しかし、電源トランスの変更するほど大がかりなカスタマイズはコスト的なメリットがありません。またサイズや特殊性の問題からメインの電源平滑コンデンサの大型化も不可能です。この問題を解決し音質を要求するレベルまで向上させるため、PM14S1では電解コンデンサだけでなく小型フィルムコンデンサもほぼ全数交換しました。そしてメインの電源平滑コンデンサには、より高性能な補助コンデンサを複数追加する事で能力を高め、音質を飛躍的に改善することに成功しました。

カスタム化の狙いは「音質」ではなく「味わいの深さ」

各部のパーツをほぼすべて高品質品に変えることで、コンポーネントの音質は飛躍的に高まります。ベースモデルPM14S1のメーカー希望小売価格は25万円(税別)でPM14S1 Masterの販売価格は35万円(税込)と高価ですが、ベースモデル1台分に使われているパーツの総額に匹敵するほどふんだんに高価なパーツを使用し、完成品を分解して100個を超えるパーツを手作業で交換するコストをお考え頂ければ、その価格をある程度までご理解賜るのではないかと思います。しかし、AIRBOWが求めるのはそんなこと(コストのこと)ではありません。

逸品館は25年間の新製品とビンテージ品を含む中古品の販売の中で、いたずらに音質を追求し音楽を台無しにしてしまったオーディオ製品を山のように見て(聞いて)来ました。またマスコミの宣伝に煽られてゲリラ豪雨のように業界を席卷しすぐに忘れ去られた、製品が少なくないことを皆さまもご存じだと思います。

オーディオマニアにとって「音の良さ」は、最も重要な命題です。しかし、それが必ずしも「音楽の味わいを深める」ことに繋がらないことをAIRBOWは経験から知っています。写真では「適度のソフトフォーカス感」、つまり「見えるか見えないかぎりぎりのラインを絶妙に醸し出す」ことが作品の味わいを深め、その芸術性を高めることが広く知られています。「はっきり見える」部分には想像力(創造力)が働かず、味わいが深まらないのです。

オーディオでの音楽再生もまさしくそれと同じです。「はっきり聞こえる」ことは重要でないばかりか、逆に音楽の味わいを損ないます。Esotericが最近、彼らのSACDレーベルから「マイクによる音の違い」を収録したソフトを発売しました。同じピアノを同じピアニストが演奏しますが、最新のマイクを使うと音が良くても味わいがありません。ビンテージのマイクを使うと、上下の周波数レンジや明瞭度は若干損なわれますが、ピアノそのものの音色の鮮やかさやピアニストのタッチの変化がより大きくなります。

アンプの音も、マイクと同じです。PM14S1 Masterはその音質を「各社の一体型プリメインアンプのフラッグシップと同等に改善」していますが、同時に音色の鮮やかさや音の艶、音楽の雰囲気の高さはそれらを遙かに超えるレベルに高めています。PM14S1 Masterの音質をさらに高めることも可能ですが、あえてそれを譲っても「見えるか見えないかのぎりぎりの艶やかさ」にこだわりました。鳥肌が立つほど「そそられる音」がPM14S1 Masterからは聞こえます。そして一度でもその世界を知ってしまうと、他のアンプではまったく物足りなくなるはずです。抗えない魔力のような魅力を持つアンプ。それがPM14S1 Masterです。

入力端子やトーンコントロールで音質を変えられます

PM14S1 Masterの最高音質は「Toneコントロールバイパス、CD入力」で発揮されますが、必ずしもそれが最高の音楽再現を実現するというものではありません。ToneコントロールをONにすると高音が柔らかく音の広がりが増し、ソースやスピーカーに合わせて低音/高音の量を調節することが可能になります。CD以外の入力端子は、音がさらに柔らかくソフトフォーカス感が強まりますので、ソースの音がハードな時にお試ください。

主な仕様

- 最大出力: 90Wx2(8Ω)・140Wx2(4Ω)
- 入力(RCA): CD, LINEx2, RECORDERx2, POWER-DIRECT-IN
- PHONO 入力(RCA)x1(MM, MC 前面スイッチで切替え)
- 出力: PRE-OUT(RCA)x1, HEADPHONEx1, RECORDERx2
- スピーカーx1
- 消費電力: 220W
- 寸法/重量: 440(W)×123(H)×457(D)mm / 18.5 kg

別売りアクセサリのご紹介



Beat Stone “Magma”

アンプの上に置いて使います ￥13,500(税込)